

岩手県の土地改良



令和4年度「農村景観」写真コンクール
風景の部 「元日の朝景」

No **591** 2023.2



CONTENTS

- ・新年のご挨拶
岩手県土地改良事業団体連合会会長 大宮 惇幸…2
- ・新年にあたって
全国土地改良事業団体連合会会長 二階 俊博…3
- ・新年のご挨拶
都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問
参議院議員 進藤 金日子…4
- ・新年のご挨拶
都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問
参議院議員 宮崎 雅夫…5
- ・東北農政局へ
農業農村整備の着実な推進を要請…6
- ・岩手県へ
農業農村整備の着実な推進を要請…6
- ・5年度予算の十分な配分などを要請…7
- ・高橋 勘一氏が
岩手県農林水産業表彰の栄誉に輝く…8
- ・令和4年度水土里ネット役員研修会開催 …9
- ・令和4年度絵画・写真コンクール入賞作品が決定…10
- ・土地改良区だより第5回水土里ネット鹿妻…11
- ・編集後記



新年のご挨拶

岩手県土地改良事業団体連合会
会長 大宮 惇 幸

新たな年を迎え、皆様方に心よりお祝い申し上げます。

会員の皆様には農業農村整備事業の推進に多大なる御尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

去年は、コロナ禍に回復の兆しが見え始め、基本的な感染対策を行いながら徐々に活動再開の動きとなりました。本連合会においても、対面による要請活動や各種研修会の開催を順次再開してきたところであります。

一方、円安、米価下落、そして電力料金・燃料などのエネルギー価格や肥料などの生産資材価格の急激な高騰などの影響により、農業農村はもとより、我が国の経済活動がより一層厳しさを増した1年でありました。

また、緊迫する国際情勢の中、我が国における食料安全保障のリスクが高まっておりますが、その強化を図るためには、国内において食料の生産基盤を維持・強化していく必要があることを改めて実感した1年でもありました。

さて、本県は、農地の約8割を中山間地域が占めており、水田整備率は、東北管内で最も低い状況です。こうした状況のもと、中山間地域を含めた農村地域における水田の大区画化や排水改良などとともに、スマート農業の導入に向けた条件整備など、食料供給基地の役割を担う本県の生産基盤を強化し、農業の成長産業化を図ることが必要不可欠です。本連合会としては、ほ場整備事業等の調査計画業務において、ドローンの導入や地図情報システムの活用により、スマート農業の展開など地域条件等に応じた事業計画の策定等を進めるとともに、換地・確定測量を通して受益者の皆様を総合的にサポートするなど、農業農村整備事業の円滑な推進に尽力してまいります。

また、昨年7月、8月の豪雨災害により、県内各地の農地や農業用施設において被害が発生しましたが、会員の皆様の御協力により査定を円滑に終えることができました。ため池を含む農業水利施設等の老朽化が進む中、大規模地震や気候変動による豪雨災害が頻発するなど、災害の激甚化が今後も続くことが危惧されています。引き続き、会員一同力を合わせて災害からの早期復旧に取り組んでいくとともに、農業水利施設等の長寿命化対策や電気料金高騰に対応するための省エネ対策、農業用ため池等の地震・豪雨対策、流域治水の取組など、農村地域の防災・減災対策に向けた取組を引き続き支援してまいります。

国の令和5年度農業農村整備事業関係予算については、当初予算として4,457億円が閣議決定され、国土強靱化のための5か年加速化対策とTPP対策などとして令和4年度補正予算が1,677億円と、合わせて6,134億円が確保される見込みです。これもひとえに、会員の皆様の熱意と全国水土里ネット会長会議顧問である進藤金日子議員と宮崎雅夫議員の御活躍、農林水産省や岩手県の御尽力の結果であり、改めて感謝申し上げます。会員の皆様の要望に応え計画的な事業推進を図るためには、今後も安定的な予算の確保が必要不可欠です。本連合会は、予算の継続的な確保に向け、財務省や農林水産省、県への要請活動を、引き続き展開してまいりますので、御理解と御協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。

今年の干支「癸卯」は、厳冬が去り春の兆しが訪れ、成長や飛躍へと向かう年とされています。世の中が良い方向に進む起点の年になるよう強く願っております。結びに、会員の皆様が益々御活躍されますよう祈念申し上げます。



新年にあたって

全国土地改良事業団体連合会
会長 二階 俊博

令和5年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年の御祝詞を申し上げます。

去年は、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、様々な感染対策を講じた上で、新型コロナウイルスへの対応と社会経済活動の両立を図るウイズコロナの方針が示されました。皆様におかれましては、「新しい生活様式」を日常生活に取り入れ、引き続き、感染拡大防止に十分ご留意いただきますようお願いいたします。

また、去年は、ロシアによるウクライナ侵攻の影響もあり、一部の国では穀物の輸出規制が実施されるなど、食料流通の機能不全や食料価格の高騰など食料安全保障をめぐる負の影響が国際社会に生じました。

国内では、農業者の高齢化や減少により、農地や農業用水の管理に支障が生じているほか、燃料価格の上昇に伴う農事用電力料金の急激な高騰が土地改良区の運営を圧迫しています。

このような国内外の情勢にかかわらず、食料安全保障の観点から、日本の食料生産を支える農業生産基盤を維持し、国民の不安を解消していかなければなりません。

岸田内閣は、こうした状況を踏まえて「食料・農業・農村基本法」の見直しに着手しました。この検討の動きを注視しつつ、我々土地改良関係者は、農業・農村の喫緊の課題に積極的に取り組んでいく必要があります。

令和5年度予算につきましては、農業農村整備の着実な推進を求める全国の皆様からの熱意ある要請活動により、政府予算案において、4,457億円を確保することができました。この結果、令和4年度の補正予算を含めると6,134億円となります。

また、令和4年度補正予算において燃料価格の上昇に伴う土地改良区の電気代高騰分の7割を支援する仕組みが導入されました。

御尽力をいただいた当局をはじめ関係各位に心から御礼を申し上げます。

他方、第5次男女共同参画基本計画に続き土地改良長期計画においても令和7年度までに土地改良区及び土地改良区連合の女性理事の割合を10%以上とすることが成果目標とされており、我々土地改良団体における喫緊の重要課題となっています。

将来の組織体制の強化・発展のためにも女性参画を進めていかなければなりません。皆様の御理解と御協力を賜りたいと存じます。

さて、私は本会の会長に就任以来「闘う土地改良」を掲げ、組織一体となって闘ってまいりました。去年の参議院選挙においては、土地改良の代表として進藤金日子参議院議員が見事に当選を果たされました。

宮崎雅夫参議院議員と共に「車の両輪」となって、全国を駆け回り、皆さんの声を聞き、土地改良予算の確保だけでなく、現場が直面している課題解決の処方箋を国の政策に反映させるよう奮闘しておられます。皆さんの声が国会に届くよう、二人の活動の支援をお願いいたします。

輝かしい年の初めに当たり、本年も皆様各々の地域において更に農業・農村が活力を得て、一層発展しますよう御期待申し上げますとともに、様々な不安が払拭され、本年が全国の皆様にとって良き年であり、日々健やかに過ごされますよう御祈念申し上げます、私の新年の御挨拶といたします。



新年のご挨拶

都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問
参議院議員 進藤 金日子

新年、明けましておめでとうございます。岩手県土地改良事業団体連合会の皆様には、旧年中、大変お世話になりました。お陰様で先般の参議院議員選挙で再選を果たすことができました。二期目においても、引き続き現場主義、地域主義に徹して政策実現に努めてまいり覚悟です。本年も何卒宜しくお願い致します。

懸案の土地改良予算については、昨年12月に成立した令和4年度補正予算で1,677億円（TPP等対策：760億円、国土強靱化5か年加速化対策：817億円、食料安全保障対策：100億円）が措置され、また、令和5年度当初予算政府原案は昨年度より4億円増加の4,457億円で、補正予算と合わせて6,134億円となりました。これらには農業水利施設の電気料金高騰対策も盛り込まれ、本年度と同様に地域の要望に応えられる所要の予算が確保できたものと考えています。

さて、昨年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症が続く中、2月のロシアのウクライナへの侵略により、エネルギー価格の上昇、穀物価格や飼料価格の上昇、肥料価格の高騰、円安の急激な進行による物価の上昇等があり、これらは国民生活に大きな影響を与えています。政府は、エネルギー価格や電気料金、肥料価格等の高騰対策を講じてきたところですが、これらを含め物価高は本年も続くと思われまます。引き続き、物価動向を注視しながら必要な対策を講じることが重要であり、私も各種対策の実現に貢献してまいり覚悟です。

昨年7月の再選後、全国各地で講演等を行ってまいりました。そこで感じたのは、経済安全保障と食料安全保障に対する国民の意識の高まりです。昨年後半の円安の進行も踏まえ、各種生産拠点の国内回帰をはじめ国内での強靱なサプライチェーン再構築の緊急性を改めて認識しております。

また、昨年6月の参議院決算委員会で、私は政治信条である「食料安全保障」について岸田総理に対し質問しました。総理からは「食料の安定供給の確保は国家の国民に対する最も基本的な責務の一つ。新しい資本主義のビジョンの下、食料安全保障を強化するべく政府一体となって取り組んでいきたい」との答弁を頂きました。

私は、「食料供給力」（国内生産力、輸入力、備蓄）の中で弱体化している国内生産体制の強化が喫緊の課題で、まさに「食料自給力」の強化が不可欠であると訴えています。その最も基礎的なものが「農地・水等の農業資源」であり、自給力の強化を図るには、農地と水の持つ機能を高める土地改良を中長期的な展望を持って推進していくことが重要です。このため、今後も予算を安定的に確保するとともに、貴重な予算を効率的、効果的に執行し、目に見える成果を出していく必要があります。

本年も土地改良推進に対する貴連合会の皆様のご協力をお願い致しますとともに、皆様からのご指導とご鞭撻を心からお願い申し上げます、新年のご挨拶にさせていただきます。



新年のご挨拶

都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問
参議院議員 宮崎 雅夫

新年明けましておめでとうございます。岩手県土地改良事業団体連合会の会員各位ならびに関係の皆様へ謹んで初春のお慶びを申し上げます。

皆様方におかれましては、日頃より地域の水と土を守り、農業の発展や農山村の活性化に向け、農業農村整備事業の円滑な推進ならびに土地改良施設等の適切な管理や土地改良区の適正な運営にご尽力いただいておりますことに敬意を表しますとともに、旧年中は、私の活動に対し多大なるご支援とご指導を賜りましたことに衷心より感謝申し上げます。

さて、私も皆様方から多くのご支援をいただきながら、昨年8月まで農林水産大臣政務官を勤めさせていただき、その間、皆様方から多くのご要望等をお受けしましたが、それぞれの課題解決等に向け、一所懸命に対応させていただきました。これらご要請の事項を含め、昨年12月に成立した令和4年度第2次補正予算では、農林水産関係で総額8,206億円、うち、農業農村整備事業関係については1,677億円が措置され、この中には、皆様方から強いご要望があった土地改良施設にかかる電力料金高騰対策として、増嵩分の7割を支援する新たな制度も含まれています。また、令和5年度当初予算の概算決定額として、前年を上回る4,457億円が閣議決定され、合計額6,134億円となる見込みとなりました。これから行われる国会での議論において、しっかりと確保できるよう一所懸命に努めてまいります。

さらに、昨今の国際情勢や長引くコロナ禍により、農業農村にも多くの影響が及んでいますが、そうした中で、我が国食料の安定供給を図る食料安全保障の確立に向けた取り組みが求められています。国内の食料生産を支える農地や水利施設等の整備・維持という重要な役割を土地改良が担っており、農業従事者数の減少傾向にも対応するスマート農業を含めた土地改良の促進や農業農村関係人口の拡大の取り組みなどを含め、しっかりと推進していくことが重要です。

私も、卯年の今年は年男を迎えますので、「食・土地改良・農山漁村は未来への礎」を理念に初心に立ち返り、これまでも増して現場主義に徹し、現場や地域の課題をしっかりと伺いして皆様のお声を国政に届け、必要な予算の確保と現場の実情に即した制度の充実に向け、誠心誠意努力してまいります決意ですので、引き続きご指導とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、岩手県土地改良事業団体連合会ならびに関係機関の益々のご発展と、皆様方のご健勝を心より祈念申しあげ私の新年の挨拶とさせていただきます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

東北農政局へ農業農村整備の着実な推進を要請

－ 安定的・計画的な事業実施や防災・減災に向け来年度予算の確保を－

12月19日、本会の大宮惇幸会長、小野寺道雄副会長、及川哲朗副会長及び千葉匡専務理事が、東北農政局において、清野哲生次長及び川村文洋農村振興部長に面会し、令和5年度当初予算の確保を始め土地改良区の運営基盤強化など「農業農村整備の



【清野次長へ要請書を手交】

着実な推進に関する要請」を行った。

清野次長からは、「要請項目1つ目の、予算の確保については、皆様の日頃の要請活動のお陰であり、その御尽力に感謝している。来年度予算案は12月23日に閣議決定する。今後とも予算確保に向け頑張っていく2つ目の5か年加速化対策については、補正予算で確保したところ。引き続き予算の執行について御協力を願う。3つ目の電力料金高騰対策については、活用できる事業がコロナ交付金や補正予算で創設されたので、今後、県と連携をとって執行して欲しい。また、来年度においても当補正事業を活用し、少しでも価格高騰の影響を抑えられるようにしていきたい。」とのコメントを頂いた。

岩手県へ農業農村整備の着実な推進を要請

－ 「収益力の高い食料・木材供給基地」と

「一人ひとりに合った暮らし方ができる農山漁村」の実現に向けて－

12月21日、本会の大宮惇幸会長、小野寺道雄副会長、及川哲朗副会長及び千葉専務理事が、岩手県に対し「農業農村整備の着実な推進に関する要請」として、令和5年度当初予算の確保、土地改良区の運営基盤強化に向けた取組の強化などについて要請を行った。

要請に対し、藤代農林水産部長から以下のとおりコメントを頂いた。

・国の令和4年度補正予算について、本県の必要額は配分されたところ。令和5年度当初予算についても必要額を確保できるよう国に働き掛けていく。

・継続地区の完了に向けて、予算の重点化、建設コストの縮減に取り組んでいくほか、新規地区については、営農計画の熟度を高めながら事業計画の作成を進めていく。

・令和4年度の電気料金の高騰対策については、12月補正予算で措置したところ。今後も国の状況を把握しながら支援策を検

討していく。

・ドローン等を活用した施設管理の省力化について、国の実証事業の成果も踏まえて、デジタル技術の活用を考えていきたい。

・防災・減災対策の重要性は承知している。ため池サポートセンターについては、今後、市町村や現地の意見を聞きながらどのように進めていくかを検討していく。田んぼダムについても、農業者のみならず地域住民の皆さんに理解いただけるよう、その機能について周知を図り、土地連の協力をいただきながら対応していきたい。



【藤代部長へ要請書を手交】

5年度予算の十分な配分などを要請 —岩手県と合同で農林水産省と東北農政局へ要請—

本会は岩手県と合同で、1月23日～24日、農林水産省と東北農政局に対し「農業生産基盤の強化に向けた令和5年度当初予算の本県への適正な配分」に加え、「燃料価格・電気料金等エネルギー価格高騰に対する支援」や「eMAFF 地図と水土里情報システムとの連携」など、農業農村整備の着実な推進に関する要請を行った。

農林水産省では、角田秀穂農林水産大臣政務官に面会し、岩手県の藤代克彦農林水産部長、千葉和彦技監、佐々木剛技術参事とともに、本会の大宮惇幸会長、小野寺道雄副会長、及川哲朗副会長及び千葉匡専務理事が、要請を行った。



【角田農林水産大臣政務官への要請】

〔左から、佐々木技術参事、千葉技監、藤代部長、角田農林水産大臣政務官、大宮会長、小野寺副会長、千葉専務理事、及川副会長〕

角田政務官からは、「要望しっかり承った。5年度予算については、補正・当初合わせて6千億を超える予算を確保し、補正については岩手県の必要額を要求させていただいたところ。当初予算の配分についても、事業が計画的に実施できるようできる限り努力していきたい。また、電気料金高騰対策については、農業水利施設の省エネルギー化推進対策等や経産省の電気料金負担軽減対策（電気・

ガス価格激変緩和対策事業）等がお役に立てると思っているが、引き続き今後の状況をみながら必要な支援を考えていきたい。eMAFFと水土里情報システムとの連携については、現場の声を聞きながら検討していきたいので、今後、具体的な提案をお願いしたい。」とのコメントをいただいた。

農林水産省農村振興局では、^{あおやま}青山豊久農村振興局長を始め、安部伸治農村振興局次長、^{せいやま}青山健治整備部長に、東北農政局では、川村文洋農村振興部長にそれぞれ面会し、要請を行った。



【^{あおやま}青山農村振興局長への要請】

〔左から、小野寺副会長、^{あおやま}青山農村振興局長、大宮会長、及川副会長、千葉専務理事〕

^{あおやま}青山局長からは、「農業農村整備事業に必要な予算はしっかりと要求していく。電気料金高騰支援策に関しては、政府の財政が厳しい中、4年度限りとして創設したところ。今年の電気料金の上昇状況をみて来年度支援策も検討していく。引き続き現場での省エネ対策も進めていただきたい。」とのコメントをいただいた。

高橋 勘一氏が岩手県農林水産業表彰の栄誉に輝く

－令和4年度いわて農林水産躍進大会にて－

12月22日、岩手県民会館において、『令和4年度いわて農林水産躍進大会』が開催された。大会では、「岩手県農林水産業表彰」、「いわて農林水産振興協議会会長表彰」、「いわて中山間賞」、「岩手県農地・水環境保全向上活動モデル賞」及び「岩手県アドプト活動モデル賞」の授与が行われ、県内各地から参集した関係者約400名から受賞者へ盛大な拍手が送られた。

岩手県農林水産業表彰

永年にわたり農林水産業に関する団体の運営や協同組織の育成又は農林水産業の技術向上発展に尽力され顕著な功績があった方を表彰するもので、高橋勘一山王海土地改良区前理事長ほか5名が受賞した。



左から2番目が高橋前理事長

岩手県農地・水環境保全向上活動モデル賞

「農地・水環境保全向上活動」とは、地域共同の力で農地や農業用水等の地域資源と農村環境を保全管理する取組で、本県では平成19年度から活動が展開されており、県内の模範となる優れた取組を行っている2団体が受賞した

受賞団体
あかざわ 赤沢3区環境を守る会（紫波町）
さんね 山根農地・水・環境保全向上対策推進協議会（九戸村）



上村勝己 山根農地・水・環境保全向上対策推進協議会代表(前列左)
阿部宏希 赤沢3区環境を守る会代表(前列右)

岩手県アドプト活動モデル賞

「アドプト活動」とは、農業水利施設の適切な管理に向け、施設管理者と地域・企業などが協定を締結し、協働で施設等の保全活動を行う取組で、本県では平成15年度から活動が展開されており、県内の模範となる優れた取組を行っている4団体が受賞した。

受賞団体	
実施団体	協定団体
株式会社平野組（一関市）	照井土地改良区
花巻機械金属工業団地協同組合（花巻市）	豊沢川土地改良区



前列左から
小野寺道雄 照井土地改良区理事長
須田光宏 株式会社平野組代表取締役社長
似内裕司 花巻機械金属工業団地協同組合専務理事
久保田泰輝 豊沢川土地改良区理事長



※アドプト活動モデル賞の賞状は、実施団体と協定団体が賞状の上部で握手している形が特徴です。

令和4年度水土里ネット役員研修会開催 －土地改良区の管理運営基盤の強化に向けて－

1月30日、本会は、ホテルメトロポリタン盛岡ニューウィングにおいて『令和4年度水土里ネット役員研修会』を開催した。

開会にあたり、大宮惇幸本会会長が「国の農業農村整備事業関係予算は、令和4年度補正予算と令和5年度当初予算を合わせ、総額6,134億円の予算が確保されたが、次年度以降も継続的に確保されるよう、役職員一丸となり国や県などへの要請活動を引き続き展開していく。」と挨拶した。



【主催者挨拶する大宮惇幸会長】

続いて、千葉和彦岩手県技監が「県では、農業水利施設の電気料金上昇分に対する補助事業を創設したところだが、運営基盤の強化に向け引き続き維持管理の省力化や複式簿記の定着、活用などの取組を支援していく。」と農林水産部長挨拶を代読した。



【来賓挨拶する千葉和彦技監】

全国水土里ネット会長会議顧問の宮崎雅夫参議院議員は「安定的に必要な予算をしっかりと確保することが大変重要であり、その入口にだいぶ近づいてきていると感じているが、予算の確保は毎年毎年の戦いである。これからも皆様方の御指導、御支援をいただきながら必要な予算の確保を続けて参りたい。」と挨拶をいただいた。



【来賓挨拶する宮崎雅夫議員】

研修では、千葉技監が『いわて農業農村整備の展開方向2023～2026（素案）について』と題して講演を行ったほか、農林水産省農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーの谷崎修氏（雫石町役場農林課林業係主査）が『増加するイノシシ、その生態と対策について』、株式会社紫波酒造店の小野裕美酒造部部長兼杜氏が『女性南部杜氏の歩みと地域の恵み』、室本隆司全国水土里ネット専務理事が『土地改良団体における男女共同参画について』『土地改良について』、全国水土里ネット会長会議顧問の進藤金日子参議院議員が『我が国の政策の展開方向』と題してそれぞれ講演を行った。

令和4年度絵画・写真コンクール入賞作品が決定

12月21日に本会主催の令和4年度『小中学生による「美しく豊かな村づくり」絵画コンクール』及び『「農村景観」写真コンクール』の選考会を開催し、絵画136点、写真52点の応募作品の中から入賞作品を決定しました。

各部門の入賞作品は、本会ホームページに掲載していますので、是非ご覧ください。

また、過去の応募作品を本会ホームページに掲載し、ダウンロード出来るようにしていますので、名刺やポスターなどにご活用ください。



【本会 HP QRコード】

【 絵画コンクール 金賞受賞作品 】

● 小学校低学年の部



「虫といっしょにおさんぽ」

● 小学校中学年の部



「大根洗い」

● 小学校高学年の部



「心をこめたぼく達の田植え」

● 中学校の部



「黄昏時の田んぼ」

【 写真コンクール 最優秀賞受賞作品 】

● 風景部門

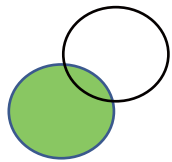


「棚田の朝」

● 人物部門



「笑顔あふれて」



土地改良区だより

第5回 水土里ネット鹿妻 (鹿妻穴堰土地改良区)

県内位置図



【高橋理事長(前列中央)と職員】

本土地改良区の受益地は北上平野の北部に位置し、北側を北上川水系雫石川、東側を北上川、西側を奥羽山系に囲まれた盛岡市、矢巾町、紫波町に跨る都市近郊型農業地帯です。大部分は雫石川を取水源とした水田地域ですが、西部地域では平成10年まで実施した国営盛岡南部農業水利事業により約300haの畑地かんがいが行われております。

鹿妻穴堰の歴史は、今から約420年前に盛岡藩開祖の南部信直公の命を受けた釜津田甚六が、盛岡市上太田穴口地内の岩山に隧道を開鑿し、雫石川の水を盛岡藩御用水堰として導入したのが始まりです。その後の明治維新後に鹿妻穴堰水利土功会、鹿妻穴堰普通水利組合への改変を経て、昭和26年に現在の鹿妻穴堰土地改良区が発足し、昭和46年に煙山土地改良区、昭和50年には不動土地改良区をそれぞれ吸収合併して今に至ります。



【鹿妻穴堰頭首工】

現在は3回目となる国営事業が平成30年から始まり、基幹水利施設の機能保全と耐震化の整備が行われているほか、県営ほ場整備事業が2地区行われており、農業用水の安定供給と農業生産性の向上に向け取り組んでおります。



【用水管理システム】

また、本土地改良区で保有・管理している水源涵養林233haを活用して管内小学生が参加する植樹体験学習会等を開催し、次世代への教育活動を行っているほか、土地改良施設の協働管理を行うアドプト活動を積極的に行っており、今後もこれらの活動を通じ地域との共生を図りながら管内の農業が発展し続けるよう、役職員一丸となり様々な事業に取り組んでいきます。

水土里ネット鹿妻(鹿妻穴堰土地改良区)

【理事長】 高橋 隆

【所在地】 〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡一丁目8番3号

【連絡先】 TEL : 019-656-4488 FAX : 019-635-4664

【受益面積】 4,528ha 【組合員】 4,395名 【理事】 10名 【監事】 3名 【職員】 13名

編集後記

明けましておめでとうございます。

NYタイムズが発表した「2023年に行くべき52カ所」に盛岡市が2番目に選ばれました。驚かれた方も多くいらっしゃると思いますが、住んでいては中々気付かない多くの魅力があるのだと思います。

農村にも同じように近くには気付きにくい魅力がたくさんあります。

今号に掲載した『小中学生による「美しく豊かな村づくり」絵画コンクール』、『「農村景観」写真コンクール』の応募作品では、そういった魅力的な農村の情景が絵画や写真で表現されています。過去の入賞作品はもちろん、惜しくも入賞を逃した作品も逸品揃いですので、ぜひ本会ホームページにアクセスしてご覧ください！

(編集幹事)



発行所 **岩手県土地改良事業団体連合会**

〒020-0866 盛岡市本宮二丁目10番1号

TEL 019-631-3200

FAX 019-631-3260

<https://www.iwatochi.com>

編集発行人 千葉 匡